

尿路感染症（上部・下部）

通常、ヒトの尿の中に細菌は認めませんが、尿路感染症は尿の中に細菌（原因菌）が認められる病気です。尿路感染症にも様々な分類がありますが、細菌が尿路のどこに感染するかによる分類があります。膀胱炎をはじめとする下部尿路感染症、更に上流の急性腎盂腎炎をはじめとする上部尿路感染症に大きく分けられます。特に発熱などの全身症状を示す上部尿路感染症が大きな問題となります。

尿路感染症は決してまれな疾患ではありません。男児の1～2%、女児の2～8%におこるとされていて、1歳未満の乳児期の発熱の5%が尿路感染症といわれています。

どのような症状をお子さんたちに認めるかというと、一番は発熱です。しかし、発熱は感冒や胃腸炎など他の病気でも認める症状です。

年齢の大きなお子さんであれば、尿路感染症に特徴的な排尿時痛や頻尿などの症状を訴えることが可能ですが、小さなお子さんの場合、嘔吐、哺乳不良、顔色不良などの症状しか認めないことも多いです。

緊急を要する症状ではありませんが、尿路感染に気が付かれるきっかけとして、一旦良くなっていた夜尿症（オネショ）を再び認めるようになった、尿の臭いが普段と変わった（刺激臭）などもあります。これは尿の中で増えた細菌により、膀胱の壁が刺激されたり、尿の中の尿素という成分がアンモニアに変えられるために起こります。気になる場合は、かかりつけの先生に相談してください。

尿検査（尿路感染症のための）を行うことで診断ができる場合が多いですが、診断や治療が遅れると、全身の合併症や長期の治療が必要となる場合もあるため、早期発見、早期治療が大切です。

治療は抗菌薬の投与を行います。診断される前に抗菌薬を使用していると、尿検査で菌が認められない場合もあるので注意が必要です。

また治療と同時に尿路感染を繰り返しやすい原因（腎尿路異常）がないか検査を行う場合があります。

